

## 第55回 日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会

岡山 就実大学 H28.11.5(土)~6(日)

「抗精神病薬の減薬および置き換えのスケジュール提案への取り組み」

薬剤部 薬剤師 椎葉 貴行

昨年の11月5日~6日に岡山市の就実大学にて開催された、第55回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会に参加をして、南国病院の薬剤部において実践している取り組みを発表してきました。私は別の演題で昨年の54回大会でも発表を行ったのですが、今回の発表ではその時の何倍もの人数の聴衆の中で発表を行うことが出来ました。

今回の発表は「抗精神病薬の減薬および置き換えのスケジュール提案への取り組み」という演題で、主に統合失調症の患者さんに使用されている抗精神病薬という薬は、適正な用量を、症状が安定してからも再発防止の意味も含めて長期間服用してもらうことになる薬ですが、適正用量以上だと副作用のリスクが高まり、患者さんの生活の質を落としてしまうことがあります。かといって急激な減薬や置き換えを行うと、そのことかえって調子を崩してしまうことのある薬でもあります。そこで薬剤部ではSCAP法という安全な減薬方法を用いた減薬や、根拠に基づいた置き換えのスケジュールを医師に提案する取り組みを行っており、その内容を発表しました。発表時間は10分という限られたものでしたが、発表後にも聴衆の方々から「もっと詳しい内容を教えてほしい」「自身の施設では、このようなケースがあるのですが、このような場合にはどうしたらいいでしょうか？」など、数多くの質問をいただきました。

これからも、患者さんにとって有益な薬物治療の力になれるように、しっかりとした取り組みを行っていきたいと思っています。



## 第4回日本難病医療ネットワーク学会学術集会

ウイックあいち H28.11.18(金)~19(土)

「レスパイトケア入院をされる患者家族へのインタビューを通して」

2病棟 看護師 石川 裕子

私は、南国病院へ入職して、レスパイトケア入院を初めて知りました。以前から興味があったレスパイ入院に対し、私たち病棟スタッフができる事は何か。家族へインタビューを行い、入院期間中に病棟スタッフに求めるものや、家族の思いなどをまとめ、今回、日本難病医療ネットワーク学会学術集会で発表することになりました。

いざ、取り組んでみると、限られた時間内での作業であり、大変な思いもしましたが、相棒である西川君の頼もしい協力もあり、最後まで乗り切ることができました。

学会では、他施設の発表を聴くことができ、難病患者様へのコミュニケーション方法やケアの困難さを実感しました。しかし、この学会に参加できたことで多くの事を学ぶことができ、非常にいい経験ができました。



**第19回  
難病患者の  
体調管理に役立つ  
学びと交流**  
南国病院  
在宅医療支援センター  
センターホール  
H28.11.12 (土)

こうち難病相談支援センター主催

神経難病患者のコミュニケーション支援

作業療法室 作業療法士 西川 祐樹

今回、初めて講師を努めさせていただき、とても緊張しました。声をかけてくださった時は、はたして自分が皆様に対して、納得のできる内容を提供できるかどうか不安でいっぱいでしたが、それと同時に自分が経験してきた感じたことや学んだことを見直し、まとめることができるので、自分を高めることができる良いチャンスをいただいたなと思いました。講師

を努める上で、自分の伝えたいことを分かりやすくまとめることはとても難しかったです。自分の成長に繋がったと思っています。今回の講義を通して、当院の専門とする神経難病という疾患は、日々、学んでいく必要があると改めて感じました。疾患に合わせたアプローチや、関わり方など、セラピストが学んでいなければ、患者様や家族様に対し、幅広い選択肢を提供することができません。なので、現場での経験はもちろん、患者様や家族様の希望や不安の声を一つ一つお伺いし、他部署と連携してアプローチを行なう必要性を強く感じました。今後、講義を通して学んだことを意識して、知識や技術を身につけ、また機会があれば講義や研修会など、積極的に参加させていただきたいと思っています。今回は、貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

**神経難病  
医療従事者研修**

H28.10.3(月)~4(火)  
5名  
H28.11.7(月)~8(火)  
5名

高知県健康政策部健康対策課主催

神経難病医療従事者研修に携わって

3病棟 看護師 田井 計行

平成28年10月と11月の2回にわたって6施設計10人の研修生を受け入れました。

今回の研修生の中には病院の看護師さんや訪問看護師さんだけでなく、行政面で神経難病の患者さんとの関わりがある地域の福祉保健所の保健師さん

も参加されました。研修生にスムーズに指導することができるか不安でいっぱいでした。説明する内容に間違いがないように、研修前には患者さんの情報や普段の業務、役割などを見直しました。見直すことで、業務や患者さんのことを今まで

で表面的にしか見ていなかったと反省することができました。難病についての講義や処置の

見学の合間に、研修生と難病患者さんの事を話す機会がありました。症状の進行によるADLとQOLの低下、家族の病状への理解と関わりの大変さなど日々の悩みを聞き、共感し、意見交換を行うことができ勉強になりました。研修生からは、難病についての苦手意識があり、難病は進行性で関わり方が難しいという意見が多かったように思います。で

すが、研修の総括で「療養病棟の患者さんと関わりが持てて良かった。」「人工呼吸器の取り扱いに戸惑うことが多かった。」「臨床工学技士から詳しい説明を受けることができて良かった。」「日頃触れることのない処置、検査を見ることができた。」という感想を聞くことができて、少しでも苦手意識を軽減してもらえたのではないかと思います。今回の経験を無駄にすることのないよう、質の高い看護を今後も提供し続けるための努力を日々重ねて行きたいと思っています。

